

大神神社のお膝元で 醸される日本酒



奈良県桜井市の大神神社は、大

おのみわ

和朝廷創始から存在する日本最古の神社と称される、由緒正しきお社である。ご神体である三輪山の麓にある蔵元が、今西酒造だ。若き当主、今西将之さん（写真右）は、同蔵の十七代目。日本酒を心から愛し、地元、桜井を心から愛する若者である。

先代の今西謙之さんは、奈良県酒造組合会長をとめるなど、自社のみならず奈良県全体の酒造業の振興に大いに貢献した方であったが、昨年、惜しまれつつも逝去され、急遽、当代が蔵主を継ぐことになった。

代表銘柄は『三諸杉』。

みひろすぎ

「当蔵は代々、力強く、輪郭のしつかりとした旨口の日本酒を造ってきました。お酒と一緒に食す料理の味わいを高めるためには、日本酒にもそれなりの個性が必要だと思っています」と今西社長。

『純米吟醸生原酒』、『純米酒切辛』、『普通酒 鬼ごのみ』など、数種類のお酒を唼かせてもらったが、どれも酸がしっかりと効いていて、確かに主張のある味わいである。今、今西さんが力を入れているのが、地元、奈良県産の酒造好適米、

露葉風。三輪山の裏手の田で栽培するほか、隣の明日香村でも契約栽培を行っている。今西さんによると、

露葉風は、ボディが厚く、しかも酸味がしつかりとしていて、キレイな味わいのお酒になりやすく、まさに、同蔵のお酒造りには抜群の好相性である。

今西さんのもうひとつの仕事は、地元、桜井、そして三輪の地域おこし。同年代の若者たちと力を合わせて、魅力的な町を育てていく。大神神社、そしてそのお膝元にある今西酒造の歴史ある建物は、大きな観光資源となる。